

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079200542
法人名	有限会社 添田商産
事業所名	グループホームかがやき
所在地	福岡県田川郡川崎町大字川崎112番地
自己評価作成日	平成24年10月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kaigokensaku.jp/">http://kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年11月12日	評価結果確定日	平成25年1月18日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>日々が、穏やかに暮らせるように職員が細心の注意を払っています。「あたたかなホーム、楽しいホーム」を目指し、日々研鑽を重ね、努力しています</p>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>高齢化が進む地域のニーズに応えるべく、開設して9年目を迎えている。代表者夫妻の出身地域でもあることから、地域との根付いた関係性の中にあり、介護相談や困難事例への対応、敷地の有効活用等、地域拠点としての役割を担いながら、事業運営を行っている。センター方式を活用しながら、支援の背景となる情報収集や、個別の可能性を検討し、日常の暮らしの中での、楽しみごとや力を発揮する場面を大切にとらえ支援を行っている。また、これまでの生活習慣やライフスタイルの継続に向けた、積極的な支援も行われており、心身の機能維持、活用に結び付けている。新たに理学療法士の資格を持つ職員も在籍し、専門職としてのアプローチにも取り組んでいる。玄関ホールには、入居者の方々の手による、本格的な手芸作品群が飾られており、充実している日々の暮らしの喜びがうかがえる。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝呼称の運営理念のようにいつも明るく過ごせるように職員共々、注意を払っています。	六項目からなる運営理念は、一項目ごとに具体的な方針が示されており、共有と実践に結び付けている。入居者の方々とともに、毎朝唱和している。研修計画の中に理念に関する項目を位置付けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	園庭を開放し、祭り等の受け入れ体制づくりをし地域の清掃活動にも必ず参加するようにしています。	代表者の地元であり、高齢化が進む地域のニーズに応えるべく開設されている。訪問時にも、地域住民の方による道案内等、温かい、根付いた関係性がうかがえるエピソードがあった。毎週水曜日のパンの移動販売には駐車場を提供し、食事作りにも地域ボランティアの協力を得ている等、相互の連携が確認できる。地域の中学生の職場体験実習を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に参加し地域の方々と連携をとれるよう努力をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族交流会等への意見や評価事項についてのアドバイスを受けています。	定期開催されている運営推進会議には、町役場職員、及び地域包括支援センター職員の参加を得ている。また、区長や民生委員、郵便局長等、地域からの参加も多い。状況報告や地域情報の共有、困難事例の相談等をもとに、活発な意見交換が行われており、形だけではなく、意義ある開催となるよう働きかけを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難事例の対応や入院施設の相談等、積極的な支援を頂いています。	川崎町高齢者福祉課や地域包括支援センター担当者、ケースワーカー等の方々と、顔の見える関係性の中で、情報共有や意見交換が行われており、困難事例への対応についても、密な連携と報告に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを整備し、定期的に会議を持ち、行政の指導も仰ぎながら、利用者様に良いケアが提供できるよう努めています。	リスクマネジメントや身体拘束に関する検討を行い、生活環境の工夫や、職員の意識を高めている。また、家族ともリスクや弊害について共有認識を図りながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。安全面への配慮はもとより、個人の思いや力の発揮を大切に捉え、喜怒哀楽を自由に表出できる場であるよう環境作りに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加するとともに、研修後、職員間の勉強会を開催し、知識の共有を図っています。また日々の言動も含め、職員間でお互い指摘しあうことで虐待防止に努めています。		

福岡県 グループホーム かがやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様やご家族様に説明を実施し、パンフレット等も、目につきやすくわかりやすい所に置いています。	権利擁護に関する制度については、入居時の説明や資料を掲示する等、情報提供を行っている。また、関係機関との連携も含め、必要時には活用できるよう、体制の整備に努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の際には、十分な時間を設け、しっかりと説明し、納得と合議のうえで、契約するように心がけております。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に一度、運営推進会議を設け、意見を反映出来るように努めています。またご家族の面会時、職員の対応等、意見の言いやすい雰囲気づくりにも努めております。	年1回、家族交流会を開催しており、参加率も高い。家族の要望に応える形で、日常の様子をDVDに記録し紹介している。運営推進会議の開催案内と、議事録が掲示されている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が意見を言いやすい雰囲気作りと、必要時は個別に意見を求め、検討しサービス変更会議に反映しております。	定期的な会議に加え、必要時には随時話し合いを行い、職員意見の収集に努めている。家族状況に配慮した勤務時間帯の変更等、実際に運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別の希望と要望を取り入れ、精査し働きやすい職場作りを目指しています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に際しては年齢や性別による判断はしておりません。また働きやすい環境整備として勤務時間を変更しました。職員がその能力を発揮し生き生き勤務が出来るよう努めております。	職員の採用にあたっては、人間性や人柄を重視し、年齢や性別による排除は行っていない。ベテラン職員と若い世代の職員それぞれが持ち味を発揮し、活性化に取り組んでいる。資格取得や研修参加へのサポートを行い、子育て中の職員に配慮し、勤務時間帯を変更する等、働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年に一回、全職員に人権学習への参加を徹底しております。	年1回、職員全員が住所地の人権研修に参加している。また、尊厳や倫理、認知症ケア等の研修実施を通じて、様々な視点から、人権教育、啓発に努めている。書式の整備や取組状況、企業倫理や地域貢献等から、コンプライアンスへの意識の高さがうかがえる。	

福岡県 グループホーム かがやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年は外部研修が多かったため、本年度は内部研修に焦点を当て、内容の充実に努めて参ります。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のデイサービスとの交流もあり、デイサービスの夏祭り等にも参加させていただいています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	こちら側から提供できるサービスをお話し、特に初期時は時間をかけて傾聴し、困っている事や不安が解消できるように努めております。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族や、本人が困っている事、不安に思っている事、要望について時間をかけて傾聴し、意見を言いやすい雰囲気を提供することで関係づくりに努めております。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの段階で情報を吟味し、また自らもしっかりアセスメントを実施し、必要によっては他のサービス利用も検討し、その方にとって最適なサービスが提供できるように努めております。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	こちら側から全面的に介護するのではなく、自身で出来ることはして頂くようにし、自尊心に配慮するとともに、介護職員と要介護者の関係ではなく、暮らしを共にする関係づくりに努めています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の様子を家族に伝え、連携を密にしています。また重要な決定は家族に委ね、一方的にこちらから決定することのないようにしています。家族との連携を密にし、絆を深めていく努力をしています。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会時の対応や利用者様が以前暮らしておられた地域での行事への参加、同窓会への参加等、なじみの人や場所の関係が途切れないよう支援しています。	女学校の同窓会への参加や、2週間に1回の図書館の利用、医師と相談しながら晩酌の継続や、馴染みの店にラーメンを食べに行ったりと、これまでの関係性や生活習慣の継続に向けた積極的な支援が行われている。	

福岡県 グループホーム かがやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないように、日中のデイルームで話しやすい雰囲気を作ったり、共通の話題を提供したりと、利用者同士がかかわりやすい雰囲気、環境づくりに努めています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状やお見舞いの通知を出すことで近況の把握に努めるとともに、相談があれば即座に対応するようにしております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族と密に面談を重ね、経歴や生活歴、既往歴の把握に努めております。また入居後は少なくとも4カ月に1度はセンター方式での評価を実施し、思いや希望の把握に努めています。	各担当職員により、4か月に1回(新規入居の場合等には頻回に)、センター方式を活用しながら、様々な視点から情報を集約し、思いや現状の把握に努めている。カンファレンス等にて本人本位の検討を行い、日常の支援や介護計画への反映に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や知人、友人の方から情報を得るとともに、行政とも連携し、これまでのサービス利用経過が把握できるよう努力しております。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	画一的なサービスの提供ではなく、その方が一日を楽しく、快適に過ごせるよう心身状態を評価・観察し、その日の利用者に応じた必要なサービスが提供できるように努めております。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画に対して適宜カンファレンスを実施し、ケア計画を随時見直すことで、現状に即したサービスが提供できるように努めております。	本人、家族の意向を踏まえ、役割等も具体的に記載しながら、本人本位の介護計画作成に努めている。日々の計画実施記録には職員のコメントも記載され、毎月のモニタリングや随時のカンファレンスを通じて、現状の確認や見直しの必要性について検討している。1か月ごとのまとめを作成し、家族に開示している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、気付きを個別の介護経過として記録し、記録をもとにカンファレンスを開催したり、情報を共有することで介護計画の見直しを行っています。また実践記録を作成し、実践しております。		

福岡県 グループホーム かがやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の状況に応じて通院の支援や、付き添い、入院時の洗濯や状況報告、退院時のお迎えなど、その都度、ニーズに応えられるように努めております。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察の地域巡回や、消防による年2回の防災訓練等、地域資源の活用により、利用者が安全に生活できるように努めております。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する医療機関を利用するようにし、受診後は迅速に報告しています。また突然の体調不良であってもすぐに受診できる医療機関とも密に連携し、すぐに医師に相談出来る信頼関係の構築にも努めております。	本人、家族の希望によるかかりつけ医への受診を支援している。また、受診報告書を作成し、情報共有を徹底している。家族と同行する機会も持ち、検査結果や医師の所見についての情報を共有している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけの看護師の連絡を徹底するとともに、看護情報を共有できるよう、職員間の勉強会も適宜、開催しております。また受診時の情報や日常の変化も看護師の視点から職員にフィードバックするよう心がけています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した医療機関には3日に1度は訪問するようにし、病院関係者と情報交換する機会を設けています。また電話でのやり取りがスムーズに出来るよう、担当を決め、円滑な情報共有ができるよう努めています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	センター方式を活用し、終末期の希望の把握に努めたり、ご家族とも面談を実施しております。また近隣の医療機関や、行政とも連携しチームで支援が行えるよう、関係作りを実施し、チーム支援が行えるよう努力しております。	重度化した場合や終末期のあり方については、入居時に、事業所としての方針を説明している。また、普段の会話の中で発せられた言葉や、センター方式の活用を通じて、意向確認に努めている。ターミナルケアに関する研修も実施されており、状況の変化に伴い、家族や医師との話し合いを重ねながら、方針を共有している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応は外部研修に参加し、実践力を身につけるとともに、内部の急変に関しては迅速に対応できるようマニュアルを整備しております。また定期的に勉強会や実践練習を行うことで迅速に行動できるよう努めています。		

福岡県 グループホーム かがやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で地域を含めた避難計画を検討するとともに、消防や町とも連携して防災訓練を実施しています。また施設内では利用者も交えて定期的に避難訓練を実施しています。	年4回、夜間帯想定を中心とする避難訓練を実施し、その内2回は消防署の協力のもと実施されている。運営推進会議の中で訓練を実施する機会もあり、地域住民の見学や参加を得ている。非常用持ち出し品が準備されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を損ねることのないよう、言葉遣いは職員間で指摘しあい、適切な言葉遣いを心がけています。また居室の掃除や身の回りの整理整頓はプライバシーに配慮しながら実施しています。	個別の時間の流れやライフスタイルの継続、居場所の確保等を大切に支援している。排泄ケアや入浴時の対応には特に留意し、尊厳を損ねることのないよう心がけている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉によるコミュニケーションだけではなく、表情、態度、仕草等の観察に努め、自己表現しやすい雰囲気を作り、自己表現しやすい環境作りに努めています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	画一的なサービスではなく、その日の体調や、気分に応じてサービスを提供するように努めています。また外出等の要望等、希望に添える形でその日に応じたサービスが提供できるように努めています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みを聞き家族に持参してもらったり、職員と一緒に外出した際に、好みのものを購入していただいたりと、その方らしい服装が出来るよう支援しております。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	音やにおいなど、利用者の興味をひく工夫をしています。また利用者の好みを献立に組み込んだり、季節の行事食を作成しています。また準備・片づけにも利用者に協力していただくことで食事に対する興味を持っていただくようにしています。	敷地内の畑で育てられたトマトやナス、また、近所で採れた土筆等、季節の旬の食材を用いたり、嗜好や状態に応じたメニューの作成や代替品の提供にも対応している。個々のペースを尊重したゆっくりとした食事風景があり、食後の余韻も楽しんでいる。野菜の下ごしらえや引き膳、洗い物等に力を発揮してもらっている。医師と相談しながら晩酌を嗜む方への対応も行われている。月1回、クッキングの日を設けている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事の摂取量は記録として残し、利用者に応じた食事量や水分量が確保できるように努めています。		

福岡県 グループホーム かがやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、起床時に、歯磨きを実践し清潔保持に努めております。また義歯装着者には毎晩、就寝前に薬剤での洗浄を実施し、口腔内の清潔保持に努めております。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、排泄パターンをつかみながら、時間誘導や、定期的な声かけを実施しています。またトイレの訴えは傾聴し、排泄の自立に向けた支援を行っています。	生活リズム・パターンシートを用いた排泄パターンの把握や、職員の観察力や気づきを共有し、個別のサインを見逃さないよう心がけながら、夜間も含めた個別のニーズに対応している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維質の摂取や水分量のチェックを実施しています。また運動の推進や腹部マッサージの実施により、便秘の予防に努めています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望に応じていつでも入浴出来るよう支援を行っています。入浴したくない利用者には清潔保持を目的に定期的に声かけを行っています。また体調不良で入浴出来なかった場合は清拭を実施し清潔の保持に努めています。	浴室とシャワー室が設備されている。少なくとも週3回の入浴を目安として、その日の希望や状況、体調等を鑑み、柔軟な対応に努めている。入浴時間や好みの湯音についても対応し、ゆっくりと入浴を楽しめるよう支援を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や気分に応じていつでもどこでも休息出来る環境づくりをしていますが、昼夜逆転にならないよう、日中は活動するよう声かけをしたり、夜間安心して眠れるよう配慮しています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬表を作成し、処方箋の内容の確認を行っています。また副作用を理解し、用法・用量のミスが無いよう、特に内容の変更時には状態の観察を密にしています。また変化時は服薬を中止し、主治医の変化を仰ぐようにしています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の際の、台拭きや洗濯物たたみ等、その方の出来ることに応じた役割をつくり、実践して頂くことで喜びや張り合いのある日々が過ごせるよう支援しております。		

福岡県 グループホーム かがやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に応じてドライブに出かけたり、買い物に出かけたりと外出の機会を設けています。またご家族と外出したり、外泊されたりと、家族とも連携を図りながら、外出機会の提供に努めています。	全体での外出行事や、個別の希望に応じた外出支援が行われている。定期的に図書館を利用したり、馴染みの店での食事、受診後にはスーパーや商店街に立ち寄る等、家族とも連携しながら、積極的な支援が行われている。玄関先や庭先にはベンチが置かれ、気軽な日光浴を行うことができる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事前にご家族と相談し、利用者とともに買い物に出かけたりしています(金銭は、立替払いとして後日請求させていただきます)		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じ、相手方の迷惑な時間帯等で無ければ、自由に電話や手紙のやり取りが出来るようにしております。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を植えたり、食事に季節のものを使ったりと季節感を感じて頂けるよう工夫しています。また大きな物音がした場合は必ず確認の呼称を実施することで、安心していただけるよう配慮し、居心地良く過ごせる環境作りをしています。	ゆとりある広さの共用空間は、間仕切りが工夫され、開放的な空間となっている。ベンチや椅子が各所に配置され、寛ぎの場所として、また、一人になれる場所として活用されている。裁縫を生業とされていた方も多く、玄関ホールには、本格的な手芸作品群が飾られている。朝は全員で掃除し、普通の暮らしの営みを通して、心身機能の活性化に結び付けている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士が談話できるよう、車椅子でも利用しやすい、テーブル等談話しやすい環境整備に取り組んでいます。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入口には確認用に小さな絵画とご本人と写真入り名札を設置しています。また仏壇や時計等、本人に馴染み深いものは持ち込んでいただき、ご本人が暮らしやすい環境作りをしています。	仏壇や筆筒、テレビ等、大切な物や馴染んだものが持ち込まれている。趣味の書籍が並ぶ居室もあり、その方らしさや生活感ある居室作りに配慮されている。個別の状況に応じて、自立支援とリスク軽減を両立させるべく、細やかな配慮が行われている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	離床センサーの設置により、転倒のリスクを軽減するとともに、手すり等の設置により、出来ることはしていただくよう自立した生活が送れるように努めています。		